

4 送信元は会社アドレスに ～ Gmail の送信元を変更する

Gmailのシステムを利用してメールを送信した場合、その送信元は当然Gmailのアドレスになります。しかしGmailでは、そのアドレスを別のアドレスに切り替えることもできるようになっています。

会社アドレスに返信

何らかの事情で会社のメールアドレスが使えず、Gmailを使ってメールを送信したけれど、返信は会社のメールアドレスにしてほしい、といった場合もあるかと思います。そんなときにもGmailは便利です。

設定を変更すると、Gmailのシステムからメールを送っているにもかかわらず、受け取った相手には送信元として「takaaki@example.com」などの別のアドレスを表示させることが可能になります。

設定方法

送信元のメールアドレスを追加するには、画面右上の「設定」→「アカウントの設定」をクリックします。「名前」という項目内の「他のメールアドレスを追加」をクリックし、名前と他のメールアドレスを追加します（図5）。

ただし、メールアドレスを追加するには、入力したメールアドレスに一度確認のメールが送信され、そこに記載されたURLにアクセスしなおす必要があります。これは他人のメールアドレスを勝手に使ったり、存在しないアドレスを使って迷惑メールを送信したりといったことに利用されることを防ぐための処理でしょう。

登録されたアドレスは、メール作成の際の送信元一覧に表示され、利用可能になります。

ヘッダの表示

なお、Gmail以外のメールアドレスを使ってメール送信を行った場合、メールの「From」ヘッダは指定したメールアドレスになりますが、「Sender」

や「Return-Path」などにはももとのGmailのアドレスが記述されています。したがってメールを受け取った人は、それがGmailのどんなアカウントから送られたものなのかを知ることが可能になっています。

たとえばThunderbirdというメールソフトでは、「差出人」とは別に「送信者」という項目として、Gmailのアドレスが表示されるようになっています。

ドメイン宛でのメールも管理

ちなみに、最近Googleでは「Gmail for your domain」というサービスのベータテストを始めました。これは自分の持っているドメインに送られたメールをすべてGmailで管理してくれるようになるサービスです。いわばメール管理のホスティングサービスというわけです。

たとえば「example.com」というドメインを持っていてこのサービスに申し込むと、「takaaki@example.com」や「mizuno@example.com」など、同じドメインのアドレスに届いたメールをGmailのシステムを使って管理できます。また、専用の管理画面を利用できる他、表示デザインのカスタマイズも可能になっているようです。

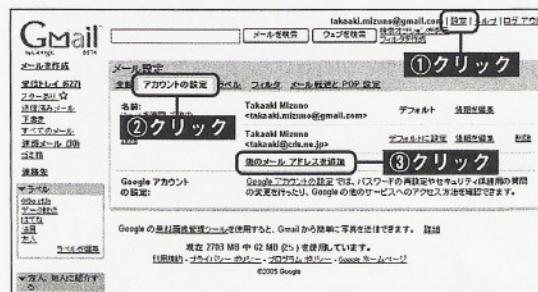


図5 ▲「他のメールアドレスを追加」すれば、送信元の表示を追加登録したメールアドレスに変えることができる。